

専門学校及び大学の部

最優秀賞

「うちなーぐち」

専修学校インターナショナルリゾートカレッジ 1 年次 下地 裕理香

私は、最近こんな声を耳にしました。

「なまのわかーたーや、ぬーんわからんやー。」

アルバイト先の民謡ライブ、終了後に三線演奏者がつぶやいた一言です。

その日、三線演奏者は「はい、にふえーで一びる、夕飯やうさがみそうち」と観光客へ投げかけました。「はい、誰か店員さん、標準語に訳して」

しかし、その場にいた十数名の若いスタッフ、誰もが応じることができなかったのです。私もその中の一人でした。

言葉の意味は、わかっていましたが、訳す程の自身がありませんでした

小学校二年生の頃から、私は琉舞や三線教室に通っており、周りの友人よりは方言をよく知っていたつもりですが、いざ訳すとしたら、すぐには言葉が出てきませんでした。

私たち若い世代が方言と触れ合う機会は、主に、お年寄りとの会話です。

私の祖母も方言を話しますが、私たち孫と話す時は、標準語しか使いません。多くのお年よりも同様に、若者と話す際に、方言を使わず、方言は通じないと思っているようです。

実際、方言を知っている若者は非常に少ないということが現状です。

私の周りでも、聞くことはできるが話せない、あるいは全く知らないという人がほとんどです。

では、なぜこんなにも方言継承が途絶えつつあるのでしょうか。

そもそも、沖縄方言の希薄化は戦時中、方言禁止令の発令がきっかけでした。

沖縄方言の特徴である、母音を強めた発声は、県外の方にとって、まるで外国語のように聞こえたようです。

当時は、方言を使うと米軍のスパイ、もしくは規則に従わない、天皇陛下に逆らう違反者であると密告され、厳しい罰を受けたそうです。

この方言禁止令は戦後も人々の中に宿り、出兵された県民が戦争からやっと沖縄に戻って来た時、急激な言葉の変化に「うちなーあらんとーん」、「沖縄が沖縄でなくなった」と嘆いたそうです。

時代の変化、経済の発展、インターネットなどの普及により、コミュニケーションのあり方が変化しています。

沖縄の良さの一つでもある、人と人との関わり、“いちやりばちょで一精神”自体も失われつつあります。

今日の沖縄は、親戚や家族、近所、地域と関わる機会が少なくなっていますが、文化継承にとっては必要不可欠です。

このような歴史や社会背景の影響を受け、沖縄の方言は徐々に消えようとしています。

一方、地方、地域の自治体では、方言教室や地域ボランティア等イベントを開催して、お年寄りとのふれあいの場を設けています。

また、ローカル番組では、方言を用いたお笑い番組や、ヒーロー番組で県内だけでなく、県外にも沖縄方言に親しんでもらおうと多くの人々が方言継承に努めています。

琉球王朝時代から長い年月の時を超え、現代まで受け継がれてきた沖縄方言。沖縄の歴史や人々の思いやり、温かさがたくさん含まれている素敵な言語。私たちが途絶えさせてしまっではいけないと思います。

このまま時が経てば、方言を知る人がいなくなり、方言を受け継ぐことができません。

そこで私は、沖縄方言に多くの若者の関心を惹きつけるために、方言継承の

取り組みとして考えている案があります。

人気のあるアーティストの皆さんに完全方言のポップ曲を創作してもらうことで、世間への浸透も早く、影響が大きいと思います。

また、その他にもコンビニやガソリンスタンド、若者がよく利用するお店のレシートや商品に一言、方言を加えたりするのはどうでしょうか。

例えば、おばあちゃんの知恵袋が書かれたお菓子や川柳の応募作品をラベルに記載した飲み物等のように、より方言を身近に感じることができるのではないかと思います。

沖縄方言が沖縄に訪れた人々のお土産になることで、土産話として県外にも伝わります。さらに、この言葉から沖縄の思い出を思い越し、沖縄のファン、リピーターの増加へと良い波紋を広げていくと思います。

沖縄の企業の方々の協力や、共感も大きな鍵になるはずです。

しかし、最も私たちにできること、やるべきことは、何よりもやはり、一人一人が沖縄の文化継承に積極的な姿勢を示すこと、地域やお年寄りとのコミュニケーションを図り、方言を学んでいくことが方言継承への近道であると思います。

“うちなーぐち”直訳すれば、沖縄語、黄金の言葉として書いて、くがにくとぅばとも言われ、他言語では決して伝えられない、独特の“ちむぐくる”があります。

この温かさに包まれて、沖縄に魅了される人々も多いと思います。

ちむぐくるは、いちゃりばちょーで一に直結するとも言えます。

自らの他人を思いやる心、ちむぐくるを育むことも方言を伝えるだけの継承ではなく、守っていくことにも繋がります。

沖縄方言の教訓は的を得た“先人の人々と共存する上での生活の知恵”が豊富にあります。“くぅとぅばじけーやじんじけー”のように、方言もお金のように大切に扱って欲しいと思います。

多くの人々に方言の意味を正しく理解し、自らの源にして欲しいです。

皆で沖縄の大切なものを守っていきましょう。

沖縄に帰ってくる人々を、訪れる人々を「むどうみそうち」、「おかえりなさい」

「めんそうち」、「ようこそ」と温かく出迎えられるように。